

2013年6月5日

人は、日常生活において、その価値、ありがたきを特に意識することなく、「ことば」を用いて情報伝達・交換を行い、人間関係を確立・維持・発展させるが、このことばをある口予期せずして失うことがある。

失語症は、脳血管障害の後遺症によって生ずる代表的な言語障害の一つである。

わが国では脳卒中による発症例が多く、全国失語症友の会連合会の調査によると、失語症者がおよそ52万人以上もいると推定されている。失語症者のリハビリに関わる専門職種の一つに言語聴覚



與儀 賢也

## 論壇

士があり、その数は全国で約2万人、沖縄県内では約200人で、その数はまだ十分とは言えない。

また、医療、介護保険制度などの改訂により、失語症者のリハビリの継続にはさまざま課題が山積している。コミュニケーション障害に「認知機能の低下」などに陥る症例が年々増加しつつあることから、失語症は患者さんだけの問題としてではな

### 「失語症者」の取り巻く現状

## 生活の質向上へ環境整備を

な面で困難な状況であり、日く、大きな社会問題の一つと本脳卒中学会が2009年にして認識し、対応すべき重要な課題であると考えた。

失語症は、一昔前と比較すると、リハビリを行うことが、少しずつではあるがメディアなどで取り上げられる機会が増えてきたものの、一

般市民の方々はもとより医療・福祉・介護分野の職種に従事する方々にすら、その障害の性質や援助法などに関する認識はまだ低く、障害への適切な対応がなされていないケースも多いと推察される。

これまでの失語症者に対するリハビリでは、機能回復が重要視されてきたが、実生活でのQOL向上や失語症者を取り巻く環境の改善を重要視するようになり、今、失語症者を取り巻く物理的、人的環境のみならず、社会的な福祉制度などの社会環境整備も問われるようになっていく。

そこで、6月9日(日)に、(那覇市、沖縄県言語聴覚士NPO法人失語症アイ振興会 会長、38歳)

が主催する第6回「言語リハビリ交流のつどい(イン沖縄)」が開催され、全国から、多くの失語症の当事者やその家族が沖縄県を訪れ、ことばの壁を乗り越えた交流活動が行われることになっている。